

## 鳥取だより

加本 一久

### 赴任以来

謂うならば、「風と共に去りぬ」のように、悪く論えば、「夜逃げ」同然に岡山を去って以来、早いものでもう2か月を経ちました。

13年もの間、喜怒哀楽の人生と人間修行をやらせて頂いた岡山には感謝の気持こそあれ、「夜逃げ」する必要はみじんもありませんでした。ただ、1月1日の発令という時期が、役所のしきたりで、年末年始がブランクとなっており、それに鳥取からは1日も早くとの催促に応じて、挨拶廻りもそこそこにして風と共に去った次第であります。

そちこちに未練も無しとは致しませんが、こうなれば男1匹マゴマゴしてる時でないとし少し気色ばんだものであります。

鳥取に着いた頃は、見渡す限り雪に掩われて物侘しく、何となく寒むざむとした印象でありました。以来仮住いの2階家から、これも仮住いの県庁農林部に通勤の途すがら、矢鱈に多いものは水分とバス位、それと反対に少ないものは青空と美人じゃないかとひそかに感じています。

少し食い気にふれますと、恰度季節の「松葉がに」が店頭にあふれ、料理屋の膳には誇らしげに座を占め、又観光客の手にはもの珍しい御土産ともなっています。しかし昔がら通り相場となっている。「名物にうまいものなし」と云っては差しさわりがあられるでしょうか？

それに引きかえ畜産物の肉類は、街にはまことにりょうりょうたるもので、当分私は肉屋さんを探すのに骨を折りました。やっと発見した肉屋さんの店頭で数度佇んでみましたが貴重品のよう飾ってあるものも、見た眼には、お世辞にも「トビ」と云えるものではなく、「銘門畜産鳥取」は、それは種畜生産地であって、利用消費地ではないことを物語っているようです。

ただ、豚肉は阪神地区でも「因伯ブタ」の銘柄で通用してる程に、この間も岡山の食通の方が、「ポーケテキ」を「コリヤ、うまいぞ」と少し賞めて頂い

たものです。

その外、菓子類は私にとって無縁のものだし、特別に賞味するものもなく、むしろ食物とは別に値段許り高いことだけが気にかかります。これはきっと、度々の天災地変に傷みつけられた不幸な鳥取の商魂の一端を知らされるものでしょう。

かくて2か月、殆んどマルマル朝から晩まで、新参の私はアタフタと仕事に追われて参りました。

ビルの中で机の上の花は、季節外れのものが活かされているので気付かなかったのですが、この数日前田舎道でふと梅の花の花盛りを発見し、ネコ柳の芽や、沈丁花の蕾のふくらみに春の息吹き、春の足音をズカに感じて嬉しく思いました。そして、そぞろ、連想されることは春光うらかな山陽のイメージがよみがえるのでした。

### ビジネスとエピソード

性急で慌て者の私はただやみくもに仕事に取り組みました。

実情も知らないので全く手探りでしたが、それでも誠に親切でベテランの上司や同僚の人達に助けられて、今やっと一息というところに参りました。それも山登りで云うならば未だ2合目か3合目というところでしょう。役所の仕事で1つの目安は予算にあります。財政規模が小さい乍らも新鮮味を添えて頂きました。

私が赴任した時は明年度予算査定は財政課査定を終わっていましたがその後勝手な注文をつけ足して総務部長・知事査定を終わらしたら、当初要求額を上廻って120%近くにふくれ上っておりました。チョット珍しいケースで前年度予算に比べて90%増と大巾に増額致しました。

所得倍増、値上りムード、畜産ブームの御時勢ですから恰度タイミングが良かったというのでしょうか。

ついでに事業の構想に少しふれてみましょう。

**第1は草地造成です。**私は大山裏側の蒜山地方の大規模草地に呼応して大山山麓大規模草地の達成をネライました。これはかねてより鳥取の宿願であつ

## 岡山畜産便り 1961.04

たので懸命に全国2か所の計画の中に食いこもうとしましたが、時既に遅く残念乍ら長蛇を逸しました。この事業こそアンビシャスで又畜産の発展に1エポックを作るものと考えています。

更らに牧野改良、草生改良、牧道、牧索等草地資源の開発は地道乍らパッションを傾けたいと思います。今一つ、土地の利用で手近かで安易なのは既耕地ですが特に水田裏作利用はウンとPRしたいと思えます。

### 第2は試験機関の整備です。

種畜場を畜産試験場に改組し酪農講習所と併設する。と同時に山陰酪農講習所(米子)と畜産加工所(浜村)の2所を廃止する方針です。

そして別に中小家畜試験場を新設する計画と予算が通過しました。この試験場には豚の産肉能力検定機関と鶏の産卵産肉能力検定を取入れたいと考えています。ここには豚の品種改良とF1利用の目的で英国のランドレース種9頭を輸入することも決めました。

経営と経済検定、能率の向上をネラッタ新しい施設を作ると共に「仏を作って魂を入れる」式で是非とも養豚・養鶏の一流の専門家を迎えたいと考えています。

### 第3は資金ワクのことです。

家畜の増殖導入から自立経営の拡大、共同経営の推進にしましても先立つものはカネであります。設備、機械、資材を整備するにも企業化、専門化のキャッチフレーズにもカネを先ず考えておかねばなりません。

今度、経営近代化資金の制度化が定りましたが差当り畜産資金ワクを2億4千万円の割当を得たことも大いに力づけるものがあります。

### 第4は流通の組織整備です。

畜産物だけではありませんが、水のように低きに流れると反対に高いところを求めて流通する不自然さとその流れ方に問題があります。この通路の交通整理が1つのネライであるのと消費地の胃袋へ安定的な出荷調整を計ることが必要なことです。

この事業主体の対象は取敢えず関係団体であり、これらの団体の組織と実行力を養うことは至難な問題ながら最も大切なことの1つのようなのです。

### 第5に人と組織です。

人材が揃って、そしてそれらが個人プレイでなくチームワークをもったならば少々の不備不足を克服していけるものです。

縦糸と横糸をしっかりと織りこんで仕事の連絡・上下の示達をスムーズにするならば私共の行政効果も大いに挙がると思えます。

私は古い慣習と新しい要請とを考え併せて前向きの体制と機構に改めチームワークを計って大いに意欲的な新畜産振興のモーターとなりたいと考えています。

概念的構想に浸っていきましたがこの間、さる酪農組合の総会に出席しました。

なかなかの盛会で1500人許りの人達が中学校の講堂に一ぱいで活潑な意見開陳があり、私も一席祝辞をやらされました。そのあとでおきまりの祝宴がありました。その席を終って帰途、駅の小さな待合室は酔っぱらった酪農人でこれ又一ぱいでした。

その中で盛んに論議されていたことは乳牛の産前産後の飼料給与の方法で甲論乙ぱの有様でした。その中の1人が私を見つけて、A「おい課長さんがいるから聞いてみい」B「いやあの方は和牛の専門家だそうだ」C「いや違う、岡山の酪農試験場におられたんだそうだ」とこもごも品定めを受けた挙句、一と先ず質問に答えさせられた。がその時に私が云いたかったことは、「私は岡山の和牛試験場長や酪農試験場長の肩書をもつが、これは岡山県で私に与えられた飾りであって決して実力ではない。女ならば髪飾りのカンザシ、男ならばシャボのようなもので鳥打ちからベレー帽に代っただけだ。中味はちっとも実がつまってないが唯代用が利くだけさ」とね。

これは私共、畜産技術者として一面不自由なことであって又一面は必要なことであるのではないでしょう。 (36・3・7)